

ヘモグロビンF 高値検体と疾患との関連性について

◎尾重 香里¹⁾、森 日登美¹⁾、藤田 晴美¹⁾、宮前 佳織¹⁾、田村 渉¹⁾、仁木 裕子¹⁾、田中 佳¹⁾、飯沼 由嗣²⁾
 金沢医科大学病院 中央臨床検査部¹⁾、金沢医科大学 臨床感染症学²⁾

【はじめに】ヘモグロビンF(以下 HbF)は α 鎖と γ 鎖を持つヘモグロビンで、出生時には Hb の 55~95%を占めるがその後急速に減少し、成人では通常 1%以下となる。HbF 高値の原因として β サラセミア、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、甲状腺機能亢進、HbF 産生腫瘍、遺伝性持続性 HbF 血症などが知られている。今回我々は当院における HbF 高値検体と疾患との関連性を検討した。

【対象及び方法】(1)2016年4月から2017年3月に HbA1c の測定依頼があった検体 43523 件(男 24185、女 19338)を対象とし、HbF 高値(3.0%以上)検体の割合を男女別と依頼科別に求めた。(2)対象検体を HbF1.0%未満、3.0%以上 5.0%未満、5.0%以上の 3 群に分類し、それぞれから無作為に抽出した約 80 検体について HbA1c、Hb、MCV の平均値及び HbF との相関を求めた。(3) HbF 高値(5.0 以上)の 77 検体(36 名)について全ての診断病名を調査した。

なお HbF の測定には自動グリコヘモグロビン分析器 HLC-723G11(東ソー株式会社)を用いた。

【結果】(1)男性の 1.03%、女性の 0.93%で HbF が高値だった。依頼科別では、小児科の 5.07%(すべて 3 歳以上)、血液免疫内科の 2.81%で HbF が高値だった。(2)HbA1c、Hb、MCV の平均値及び相関係数を表に示す。

HbF(%)	HbA1c(%)	Hb(mg/dL)	MCV(fL)
1.0 未満 (n=80)	5.71	14.0	93.4
3.0~5.0 (n=80)	6.42	12.5	99.2
5.0 以上 (n=77)	5.94	12.0	101.2
相関係数	0.12	-0.45	0.46

(3)36 名 49 病名中、再生不良性貧血 1 例、その他の貧血 8 例、甲状腺機能亢進 1 例、腫瘍 11 例(血液疾患 4 例、消化器系疾患 2 例、その他 5 例)、糖尿病 4 例、その他 17 例、基礎疾患なし 5 例、未診断 2 例であった。

【考察】日常業務において HbF 高値検体の疾患は多岐にわたった。また HbF は Hb と MCV に相関があることより大球性貧血との関連性が確認できた。

連絡先 076-286-3511 (内線 5344)